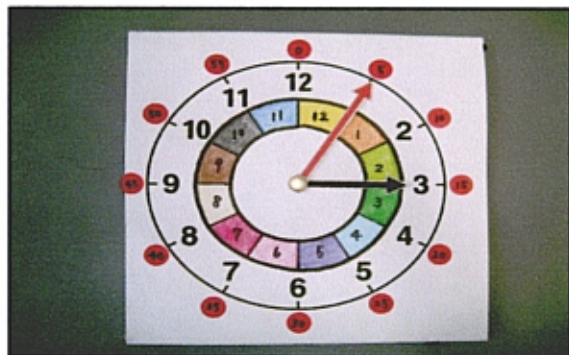
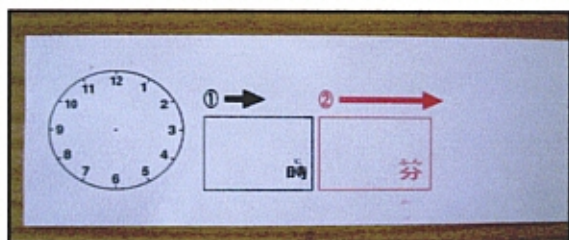


(時計)



(記入用紙)



◇指導方法

短針が黒、長針が赤の時計の教材を準備し、始めは学校生活で特に意識して欲しい時間に教師が合わせていく。

短針は中の黒い数字、長針は外側の赤い数字を見るように指導していく。また短針から必ず見ていくように指導する。

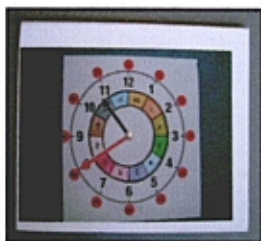
児童は記入用紙に、

- ①教師が示した時刻と同様に針を書く。
- ②教材の時計の短針が指す数字を黒枠に記入する。
- ③次に長針が指す数字を赤枠に記入する。
- ④書き終わったら児童が読む。

児童が時計の見る位置や読む順番が分かってきたようなら、教材の時計のカード（表面に時間、裏面に正解）を用意し、練習問題を行い、自分で確認できるようにする。

(時計カード) 表

裏



◇指導のねらい

- ・ 時計の読み方が分かる。
- ・ 学校生活で時計を意識して自分から行動できる。

◇指導の評価

○はじめ、私自身が「視覚的に情報が多いか」と感じていたが、児童は時計のどこを見ればよいのか分かりやすかったようで、少しの練習で短針・長針の読み方を間違えなくなった。

○記入用紙に書くことによって、本人にとって整理されたように思う。

○短針から見ていくということを徹底して統一したことが児童にとって見方の整理がしやすかったのではないと思う。

○家庭でも同じ教材を渡して同じやり方でやっていただいた。保護者の話では、今までの時計学習では、長針（分）の読み方は比較的すぐに覚えたが、短針（時）の特に1時30分などで1～2の間に針がある場合、どうしても理解することができなかった。それが短針を正しく読めるようになったというご意見をいただいた。

○未だ全ての場面ではないが、教材の時計を示し、例えば「〇時〇分になったらマラソンだから、自分で運動場に行ってください。」など言うと、今まで一人でなかなか行くことができなかったのに教室の時計を見て、「〇分になった」と言って自分から行動できるようになった。

また、本人が見通しを持ちづらい活動で、少し落ち着きがなくなりだしても「〇時〇分まで〇〇をするよ」と言うと、再び落ち着いて取り組めるようになり、学校生活に見通しを持つ手段が増えたと思う。

○現在は、普通の時計カードでほぼ分かるようになってきているが、児童がつまづいた時のみ、教材の時計カードを使うようにしている。今後も練習問題を重ね、徐々に教材の時計を使う機会を減らしていきたいと考えている。